



自分を越えた眼を Look Beyond Yourself

ラジェンドラ・K. サブー
 1991~1992年度 R I 会長

世界理解月間

1992. 2. 7 (金) 第208回例会

1. 点 鐘
2. 国歌斉唱
3. ロータリーソング「それこそローター」
4. 「四つのテスト」唱和
5. 食 事
6. 会長の時間
7. 幹事報告
8. 各委員会報告
9. 2月セレモニー (誕生日・結婚記念日祝)
10. 会員卓話
11. 点 鐘

第207回例会記録

(1992. 1. 31)

会長の時間 濱田 松太郎

早いもので、正月、正月と言っているうちに本日もちまして1月も終わろうとしています。

明日から2月に入りますが、昔から「2月逃げ月、3月去り月」と、月日の経つのは「光陰矢の如し」というのは、正にこのことかと思えます。1月以来暖い日が続き、大寒の入りといっても、寒い日がちょっとあっただけで、地球の温暖化が注目されるようになって久しくなりますが、やはり冬は冬らしく寒さがやって来ないことには、いろいろな面で困ります。

例えば、田野町の大根干しにしても、千切大根の不出来にしても、また、梅が早咲きで実が結びにくいのも、すべて暖冬の影響を受けており、その被害はかなりの額に達しています。

さて、大相撲初場所千秋楽は、去る1月26日東京両国国技館で行われ、ご承知のとおり、東前頭2枚目貴花田が14勝1敗の成績で初優勝を飾り、伯父の二子山理事長から優勝杯を手渡されましたが、19歳5ヶ月という年令は、大鵬の20歳5ヶ月を上回る史上最年少優勝記録です。親(貴の花、現藤島親方)子二代にわたって幕内優勝の偉業を遂げましたが、その裏には血のにじむような厳しい修練の積み重ねがあったからこそと推察されます。

ところで、1月26日より2月1日までの今週を、国際ロータリー理事会では、1947年(昭和22年)1月27日死去したロータリークラブ創始者ポール・P・ハリス(1868年4月19日~1947年1月27日)の生前の遺徳と、物故ロータリアンの冥福を祈る追悼記念週間と定めております。つきましては、ただ今より1分間の黙祷を捧げ、故人の冥福を祈りたいと存じます。(全員起立し、黙祷)

幹事報告

鈴木正敏

1. 例会変更通知

- ・宮崎南RC 2月10日は特別休会
- ・宮崎RC 2月11日は建国記念日のため休会
- ・西都RC 同上
- ・日向東RC 同上

2. 3月15日、日南市文化センターで「IM」が行われますが、昨年の例にならって、全員登録となっています。2月20日が登録締切

りになっていますので、どうしてもご都合の悪い方は早目に申し出てください。

出席報告	神宮寺 利夫
会 員 数	18名
欠 席 者 数	2名
H C 出席者数	16名
出 席 率	88.89%
欠 席 者 名	柳田・岩切高明

ビ ジ タ ー

西都R C 尾 崎 公 男 君
" 岩 切 昇 君

会員卓話 鈴木正敏君

私がここ1年何をしたかという、ゴルフの練習を始めたことです。

この前は初めて皆さんと一緒にさせていただいたのですが、結果はダブルスコアは辛うじて切ったものの、まだまだ散々なものでした。

そもそもの始まりは、昨年の花見の時に、田村勝二さんが、僕もフェニックスゴルフスクールに行き出したというお話をされていて、それは丁度よい機会だと思って、次の水曜日に連れて行ってもらったのが最初でした。行きましたら、その時は既にもう2~3回レッスンが進んでいたものですから、練習場の係の人が、「次がまた7月から始まるので、それからにされてはどうですか」と言われました。私は、それは困った、連れの人もあるって丁度いい機会だと思っていたのにと考え、よし折角決心して来たのだから、途中からでもよいからと言って無理に入会させてもらいました。

最初は、私の親父が25年ぐらい前に使っていたゴルフクラブがありましたので、その中から7番アイアンとドライバーの2本を持って行きました。レッスンは毎週水曜日の朝の10時半からあるのですが、最初にステップIというのが10回(10週)ありまして、理想的なゴ

ルフスイングを身に付けるということなのですが、ここでまあ何とか球に当るようになるというくらいで、もちろん最初の第1球は空振りでした。これであせってしまって次を打つのですから、先ずまともに当りません。それと、なかなか、いわゆるスイートポイントで打てないから、何か指の骨にガツン、ガツンと響いて、暫くというか、ついこのあいだまで、突き指をしたみたいに指が痛みました。もちろん手のマメは最初のうちすぐできて、2~3回は、できてはつぶれ、できてはつぶれて、絆創こうをベタベタ貼って練習しましたが、そのうちに何とかマメができないようになりました。

それからステップIIになると、フルスイングの完成ということになるのですが、これがまた10週あるのですけれども、このフルスイングの完成どころか、ますますスイングの仕方が解らなくなるのです。ステップIからある程度練習して、初めのうちは週1回のレッスンと、自分でほかに1~2回は練習をやりましたが、それまでが全くの初心者で、教えられる通り自分ではしているつもりが、気持だけはそうにしていて、体は全然そうは動いていないのです。

それでも、まあある程度は素直な気持で打っていたのが、だんだん欲が出て来て、もっと飛ばそうとか、上手な人の打っているのを見て、あんなふうに打ちたいかと思って打つようになるものですから、スイングがくずれて、逆に打てなくなったのだと思います。

6月~7月にかけて、会社の事務員が辞めるという事態が生じ、(今の若い人は、辞めるときにはサッと辞めてしまう)、新しい事務員の募集やら、新人は1ヶ月ぐらいは付いていて教えないと仕事ができないしで、何とどこではなかったのですが、それでも何とかこの機会にゴルフというものをものにしなければと思って、時間をやりくりして一所懸命にやったものです。

そしてその頃には(今でもそうなんですけれども)、アイアンを練習していて、それから次

にドライバーを少し打ってみて（この頃はドライバーは全くまともには打てなかったのですが、それから又アイアンに持ち替えて打つと、今度はもう全く打てません。同じアイアンでも番手を持ち替えると、何球かはうまく打てない、というような状態が続きました。それと、アイアン5番ぐらいまでは何とか打てても、4番とか3番とかいうのでは、打っても結局5番と同じくらいの飛距離しか出ません。これは今でもそうです。4番以上の長いクラブは、打ちっ放しで練習してみるだけで、実際のコースでは使ってみても、あらぬ方向に飛んだり、そのうえ飛距離も短かかったり、なんぼか5番で打った方がまだ距離も方向もましというような状態です。ドライバーやら、他のウッドに至っては、まだまだ盲打ちの状態で、これまたどういふふうに飛んで行くかわからないというのですが、たまに真直ぐに飛んで行くことがあります。こういう時は本当にスカッとした気分になります。

そして、9月頃に一度このレッスンの仲間と一ツ瀬川の河川敷に行ったのです。その頃はまだドライバーは全然打てなくて、アイアンもちゃんとボールに当たるかなと心配して行ったのですが、幸いアイアンの方は以外とまともに打って、何とかかこうはつきました。しかし、ドライバーはOBの連続で、まあそれでも、今は練習と思ってフーフー言っただけで回りました。

前半はそれでも何とか付いて回ったのですが後半はもう疲れて疲れて、足は棒になるし、その終るまでが長いこと長いこと、最終ホールに来たら本当にホッとしたものです。その時は、ゴルフというものが全然楽しくありませんでした。こんなにハードなものかと思って、うんざりしたものです。

しかし、最初は1時間かそこらのレッスンをしただけでも、その日は疲れてだるくなったのですが、今はもうそのようなことはないなあと思って、また次の練習に通い出したものです。

その次は、ステップⅢということで、コン

ロールスイングを身に付けるということでした。これは練習では簡単で、割と楽にテキストに示してあるようにできるので、実際のコースでは非常にむずかしいものでした。グリーン周りをあっちに行ったり、こっちに行ったり、思うようにはできません。私の場合は大体がトップしてしまっただけで、はるか向う側へコッソリ、シュルシュルと転がって飛んで行ってしまい、だからといって今度は小さく打つと、ポテッと2～3m先にしか転がらなかつたりという具合でした。コースと練習場と違う点は、そのほかに斜面があることです。一度はコースで、ティーショットをチョロして、直ぐ前の斜面に転がったのを打つのに5～6打たたきました。打っても打っても土を打っただけで、ちっとも球が転がらなくてあせったことがあります。

それと、あとは谷越えというのでしょうか、間に何か障害物があって、それを越して向う側に打つという時が、（そうでない時は、まあ高く上がる飛球で打っていても）、百発百中その中に打ち込んでしまうから不思議なものです。また、バンカーがあると必ずバンカーの方に飛んで行ってしまいますね。

まあそんなこんな状態でこの前の佐土原RCゴルフコンペに参加したわけです。最初の3ホール目ぐらいまでは、自分でもびっくりするくらい、まわりの人もびっくりするくらい調子よく回れたのですが、4ホール目のショートホールから本領発揮で、あっちへ行ったり、こっちへ行ったりで、皆さんも納得という感じで、結局132という成績でした。

私の場合、どうも脇が開くのかも知れませんが、飛球が左へ行くので、脇を締めて、常に打球が真直ぐ飛ぶように、それと、ドライバーをせめて6～7割はまともに飛ぶように、さらにアプローチの練習も同時に積んで、当面の目標をいわゆる除夜の鐘までにはしたいと思います。

今回のコンペには、田村さんも是非参加されますように、私が今度参加させてもらって、お

こがましい言い方ではありますが、田村さんも十分楽しめるものと思いますので、重ねて是非お勧めいたします。もちろん上手な人もおられますが、それなりの人もおられますので、私のように心臓強く参加して、共に楽しみましょう

ビジター卓話 西都RC 尾崎 公男 君

私は鈴木幹事さんのお父上とは、仕事上で永くお付き合いをさせていただいております。

先き程は、ゴルフ入門記とでもいうべき尊い体験談を楽しくお話していただきましたが、お父上とそっくりのすばらしいお人柄がにじみ出て、大変感銘して聴かせていただきました。

ゴルフは確かに面白いスポーツですが、一面自己との闘いのスポーツでもあります。ゴルフは「メンタル・スポーツ」であるともいわれますのは、心理的な要素が多分にプレーの結果に表われるからでしょう。あまり緊張せず穏やかな気分で臨みますと、不思議と好成績を挙げるものです。私がゴルフを始めたのは33年前30歳の時でしたが、自分の心身を鍛えるためには絶好のスポーツであると思っています。

アメリカのイリノイ州オリア市にある市営ゴルフ場では、市の振興策として多くのゴルファーを誘致するため、「オリア方式」というハンディの計算方法を案出しています。

さて、私共が今心配しているのは、若者が大変減少してきているという現象です。18歳の我が国の人口が1992年は205万人であるのが、1995年には177万人、2000年には151万人と漸減していきます。実に8年後には50万人も減少することになります。

今日の日本の経済成長は平均的に2.5%から3%ぐらいですが、人口は逆に10%~30%減少していく予想で、G.N.P.の低下という大きなジレンマが押し寄せてくるような気がするのです。2005年には18歳人口は138万人となり、これは大変な労働人口の減少となります。また、最近の若い人達の風潮は、勤勉は罪

悪で、バカンスは良いことだと考えがちで、キツイ・キタナイ・キケンな仕事を拒否する傾向があります。わが国の将来を考えると不安です。

イギリスからの研修生が日本に来て、それぞれのセクションで6ヶ月勉強をしてもらったときの話であるが、中には4ヶ月で研修を終る者もいたので、残りの2ヶ月で他のセクションの仕事を覚えたらどうかと勧めますと、彼等は、「私はこのセクションだけを覚えればよいのだ」と答えたそうです。若しこれが日本人であったなら、折角残った2ヶ月をもったいないから、何か他のことも勉強して帰国しよう、と考えるであろうと思うのです。かつては大英帝国と呼ばれて四海に君臨したイギリスが、大戦後没落して行ったのは、このような国民の勤労意識によるものかも知れません。アメリカの自動車業界についても同様の例があります。かつて私はデトロイトの自動車製造工場を見学してもらったことがあります。工場内では、自動車の部品を組立てているところでしたが、工員はタバコを吸ったり、ガムを食べながら作業をやっております。私はその時に、これで本当によいのかなあと思いました。今になってみますと、アメリカ車が自国でも売れないのは、故障が多いからだと言コミは書いております。

こういうイギリス病、アメリカ病が今後の日本に出てこないものでしょうか。働くことは悪いことだという意識をこれからの若者が持つようになれば、大変なことになると思います。

仕事には、苦しいことやつらいこともあるでしょう。楽しい仕事ばかりはありません。しかし、働くことの喜び、生産することの喜びを自ら感得するという貴重な人生体験は、勤労者にこそ与えられたものです。わが国の労働市場の50%は婦人が占めています。それも、平均年齢35歳以上の主婦が80%いるとのこと。

若者の働く意欲を高揚し、若い労働力があらゆる職場に注入されることが、これからの日本にとって極めて重要であることを老母心ながら強く訴えたいのであります。(要旨)